

○事業所名	こどもサークル小山喜沢（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	66	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学校の集団生活に適応するための基本的なルール（順番を待つ、挨拶、整理整頓等）を学ぶ機会を提供している。	絵カードやタイマー等の視覚支援を活用し、活動の見通しを持てるよう支援するとともに、時間の概念を理解しながら行動できるようサポートしている。	ひらがなや数字の学習についても、遊びの要素を取り入れながら段階的に進め、小学校入学後の学習に対する不安軽減と自信の形成につなげていく。
2	机に向かって座る時間を徐々に増やし、学習環境への適応力を高めている。	小学校での一日の流れを模擬的に体験する活動を取り入れ、時間割の概念や活動の切り替えに慣れる機会を設けている。	簡単な指示を聞いて行動する練習を繰り返し行い、教師の話を理解したうえで適切に行動できる力を育てていく。
3	授業で必要となる語彙や基礎的な概念理解を深めるための学習支援を行っている。	学習タスクを視覚的に提示し、取り組む内容や進捗状況が分かるよう工夫することで、児童が安心して学習に取り組める環境を整えている。	学校の授業スタイルに近い環境を設定し、発表や意見交換の練習を取り入れることで、授業参加への意欲や自己表現力の向上につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育環境と小学校の環境に差があり、子どもが戸惑わずに移行するための準備が十分でない場合がある。	児童によっては鉛筆を持つことや長時間の着席が難しく、就学準備を一律に進めることが困難な状況がある。	小学校の環境に近い体験ができるプログラムを計画的に実施し、児童一人ひとりの特性に応じた就学準備支援を行うことで、安心して入学できるよう支援していく。
2	学校ごとの支援体制の違いにより、就学準備における支援内容の標準化が難しい。	言語能力や社会性の発達に大きな個人差があるため、画一的な支援では対応しきれない状況がある。	集団活動の中でも個々の特性に応じた配慮や支援を行い、必要なスキルを段階的に身につけられる機会を増やしていく。
3	自宅学習の習慣が定着しにくく、事業所内での学習支援だけでは十分な支援とならない場合がある。	児童一人ひとりの得意・不得意や家庭環境の違いにより、学習の進め方や支援方法に差が生じやすい。	個々のベースや理解度に応じた学習計画を立て、家庭とも連携しながら、達成感を得られる仕組みづくりを進めていく。